

お伝えします！

# H25年度 特別会計 当初予算



前回に引き続き、

今月号は、《加賀市H25年度特別会計当初予算》について、みていきます。

市の会計は、一つではありません。

大きく分けると、前回みてきた一般会計と、今回みていく特別会計の2つがあります。

一般会計は、教育や福祉など市の基本的な経費を盛りこんでいます。

それに対して、特別会計は、特定の収入によって、特定の支出に充てるために一般会計から独立して経理を行っています。

**特別会計を監視することが、大切になってきています！**

## Why?

2005年の「夕張市の財政破綻」をきっかけに

『破綻を招かないために、市全体の会計をみる視点と連結』が、とても重要視されるようになりました。

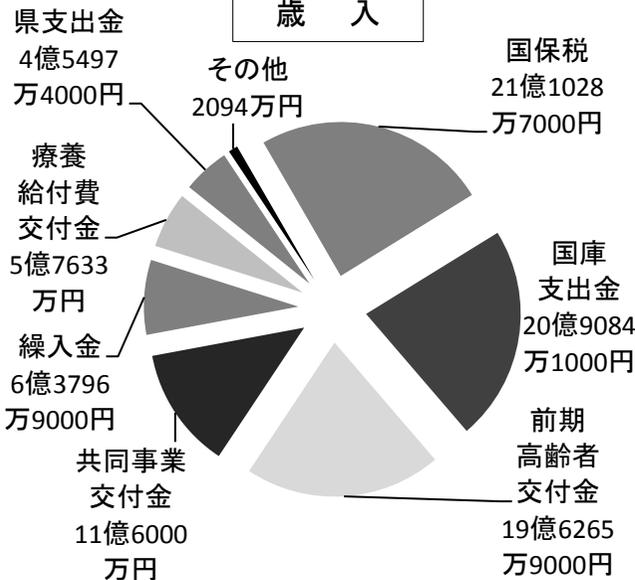
市民の皆さんにも、特別会計に関心をもっといただくことが、健全な加賀市づくりに重要となっています。

## 1 国民健康保険特別会計⇒市民みんなで支え合い

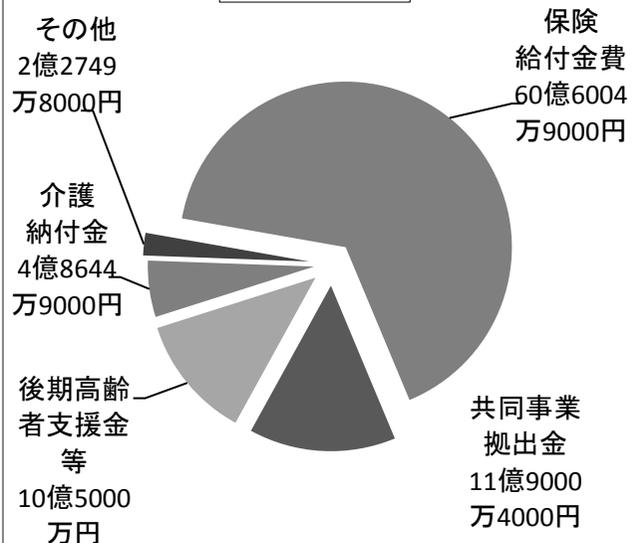
H25年度当初予算総額 90億1400万円

対前年度比4.1%の減少⇒理由→国保加入市民の減少など

### 歳入



### 歳出



・国保は、市を保険者とし、その加入者は、自営業者・専業農業者・無職の方などで、加賀市の場合、19946人の11780世帯です。

・景気の低迷、被保険者数の減少、又、医療技術の発達等による医療費の増大などにより、国保会計はとても厳しい状況です。

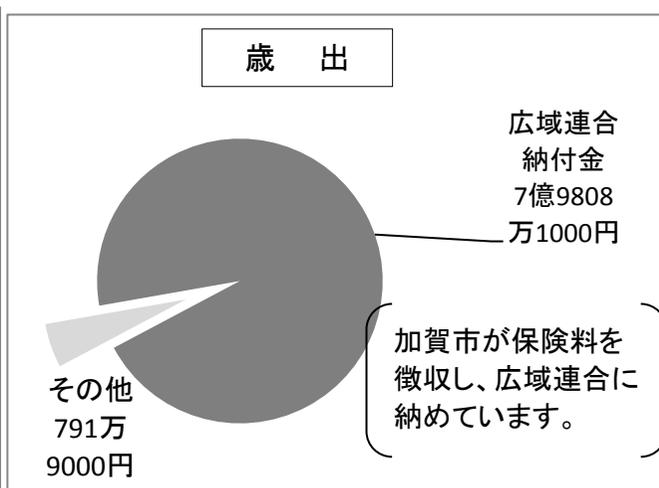
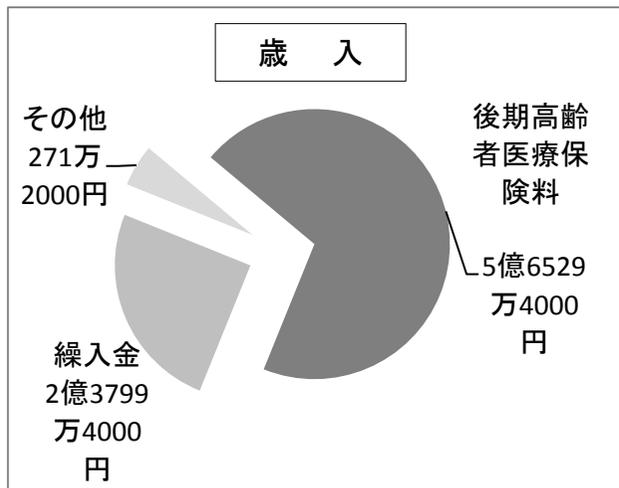
・市としては、特定健診等の受診の推進やジェネリック医薬品への切替えの働きかけなどによって医療費を抑え、歳出を減らすとりくみを行っています。



## 後期高齢者医療特別会計⇒ひとは誰でも歳をとる

予算総額 8億600万円(前年度比0.5%の増加)

(75歳以上の市民の増加に伴うもの)



・後期高齢者医療制度とは、75歳以上(一定の障害がある場合は65歳以上)の高齢者を対象とした医療保険制度で、県を単位とする広域連合が保険者となります

### 保険料額

75歳以上の方の保険料は、広域連合ごとに額が設定され、賦課されます。賦課額とは、加入者全員が等しく負担する「均等割」と所得に応じて負担する「所得割」で、構成されています。

- ・所得の低い方は、保険料の均等割額が世帯の所得水準にあわせて軽減されます。
- ・加賀市の場合・・・被保険者は、10700人、均等割額 47520円、所得割率9.33%です。
- ・H23年度で・・・所得の低い方の保険料の軽減は→9割軽減 1929人、8.5割軽減 2563人、5割軽減 327人、2割軽減 812人、被扶養者 792人でした。

### 3 介護保険特別会計⇒介護が必要になったときのために

予算総額 67億3140万円(前年度比3.3%の増加)

(要支援者及び要介護者の増加に伴うもの)

#### 主な歳出

- ・介護サービス費 55億1909万4000円
- ・予防サービス費 4億4630万4000円
- ・特定入所者介護サービス費 2億8118万6000円→(居宅費や食費等が低所得の介護認定者が過重な負担とならないための軽減措置)
- ・高額介護サービス助成費 1億1879万4000円→(要介護者の自己負担額が限度額を超えた場合、その超えた分を支給)

・介護保険とは、「介護を必要とする高齢者の介護等にかかる費用を社会全体で支援するための保険制度」です。40歳以上の市民で保険料を出し合い、介護が必要になったときは、心身の状態に応じたサービスを、かかった費用の一割負担で受けられます。

#### 加賀市の介護保険サービス受給者数の推移

	H12年10月	H23年10月
在宅サービス	779人	1810人
施設サービス	481人	709人
地域密着型サービス	(H18年に創設)	419人

高齢化の進行に伴い、介護保険のサービスを利用する人は毎年増加しています。それに伴い、加賀市の介護保険の総費用は、年々増え続けています。

・介護保険料は、介護サービスを利用する人、そしてその見込み額、65歳以上の市民の人数などに応じて3年ごとにみなおされます。加賀市は、高齢化の進行によって、保険料の負担が高まっています。市としては、少しでも、保険料の値上げを抑えるために、介護予防事業などを推進し、いつまでも元気でいられるような取り組みや、介護予防サービス等により、介護状態の維持・改善に努めています。

### 4 加賀山代温泉財産区特別会計

予算総額 1億3840万円(総湯・古総湯事業など)

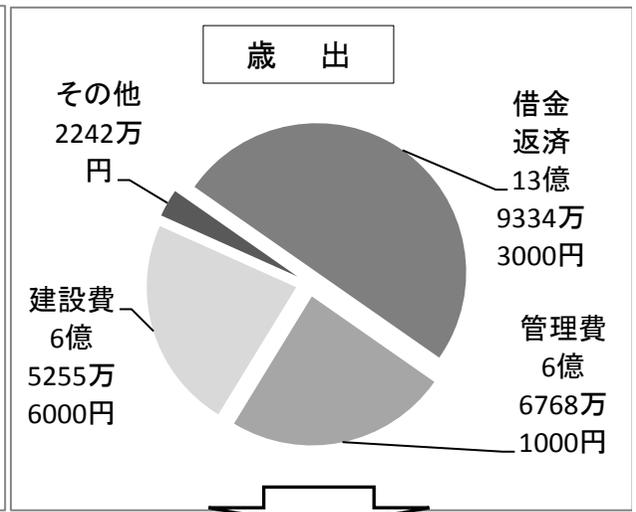
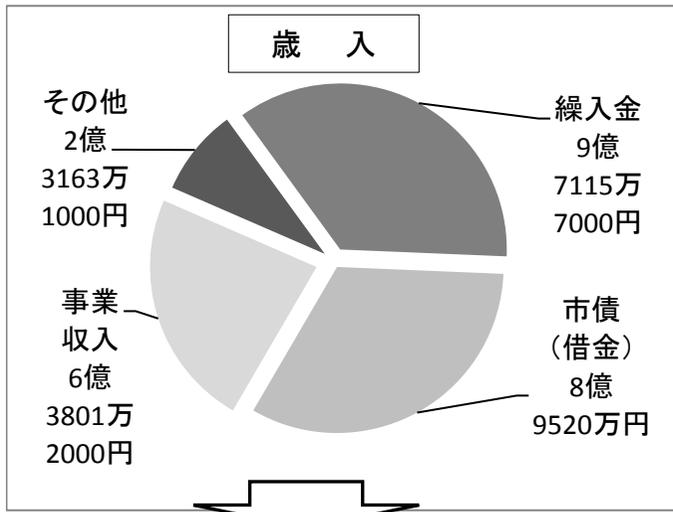
### 5 加賀山中温泉財産区特別会計

予算総額 1億6200万円(菊の湯事業など)

### 6 下水道特別会計

予算総額 27億3600万円(前年度比12.6%の減少)

(H24年度に、柴山潟の浸水対策事業が終了し予算規模が縮小した事に伴うもの)



・加賀市の下水道事業は、歳入の約3割を借金に頼っています。そのため下水道事業特別会計の借金総額はH24年度末で183億8200万円にまで膨れ上がっています。

・加賀市の下水道事業は、借金が減らない危険な構造的問題を抱えています。

・加賀市では、下水道の加入率が低いいため、せっかく整備した下水道が適切な収入を得ていません。

・下水道加入促進や料金徴収を促進し借金依存体質からの脱却をはからなければなりません。

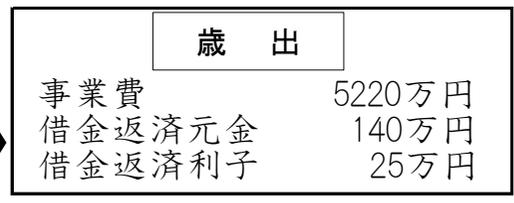
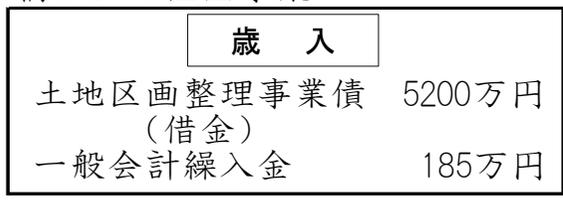
**7 土地区画整備事業特別会計 予算総額 9490万円**

(2つの土地区画整備事業)

・長谷田西土地区画事業



・橋立土地区画事業



○長谷田西地区においては保留地処分収入で、借金返済をまかなうべきであり、売るための更なる工夫をしていかなければならない。

**室谷 ひろゆき 議会報告**

市役所 加賀市大聖寺南町二41 72-7965(代)  
住 所 加賀市山代温泉14の67 77-7839

2013年  
4月号

(討議資料)